

教育長定例記者会見 会見録

日時：令和8年6月25日（木）15時00分～

場所：教育委員室

発表項目

- ・「わたしの好きな本大賞」を実施します
- ・県誕生150周年事業「みえに学びみえの未来を考える」探究学習推進事業を実施します

質疑事項

- ・「わたしの好きな本大賞」を実施します
- ・県誕生150周年事業「みえに学びみえの未来を考える」探究学習推進事業を実施します
- ・小学校の火災に関する知事会見について
- ・教員採用試験について
- ・国籍要件について

発表項目

○「わたしの好きな本大賞」を実施します

三重県教育委員会では昨年度に引き続き、好きな本についての紹介文や、さし絵を募集します。お手元の資料の項目1「目的」をご覧ください。本事業は、子どもの読書習慣の定着や、読書環境の醸成に向けた取組を行います。新たな本との出会いの機会を創出するとともに、図書館や地域の書店など、読書に関わる場所の活性化を目的としております。

募集内容でございますけれども、自分の好きな本についての、300字以内の紹介コメントを募集する「一言コメント部門」と、自分の好きな本に合うよう創作したさし絵を募集する「わたしのさし絵部門」の二つの部門がございます。募集期間としましては、子どもたちが夏休みに取り組んでいただけますよう、7月1日から、9月11日までとしています。対象は、「小学生以下の部」と、中学生以上が参加できる「一般の部」がございます。どちらの部も、県内在住もしくは県内に通学、通勤されている方がご応募いただけます。

選考方法につきましては、一次選考、二次選考を経まして、各部門、各部でそれぞれ5点の作品を選出いたしまして、11月から12月ごろに県民投票を実施いたします。県民投票は、ウェブからの投票とともに、一部の図書館や書店にご協力いただきまして、私の好きな本大賞の特設コーナーに最終選考作品を掲示いたしまして、作品を見た県民のみなさまが、その場で二次元コードから投票していただくという方法を予定しております。

表彰等につきましては、各部門、各部でそれぞれ1点の大賞を選出し、各受賞者を県庁内施設にお招きいたしまして、表彰をする予定でございます。また、小学生以下の部に応募いただきました方々全員に、参加賞を準備させていただきます。

こちらの事業は昨年度開始し、今年度が二年目となります。初めて実施した昨年度は、「一言コメント部門」に 185 点、「わたしのさし絵部門」に 208 点、合計 393 点のご応募をいただきました。また、昨年度の県民投票では、すべての部門、部に対しまして、合わせて約 9000 票あまりの投票をいただきました。報道のみなさまには、ぜひ県民への周知にご協力いただきますようお願い申し上げます。本事業を通しまして、多くの子供たちが、家族や地域の大人と一緒に本に親しんで欲しい、本と向き合って欲しい、そして新たな本と出会ってほしいと考えております。

○県誕生 150 周年事業「みえに学びみえの未来を考える」探究学習推進事業を実施します

県教育委員会では、今年度の新規事業といたしまして、県内の高校生が、有識者や県内企業等と連携して、「ふるさと三重」をテーマとした探究学習に取り組むことを支援いたします。こちらは県誕生 150 周年事業として実施するというものでございます。

事業の目的でございますけれども、本事業を通しまして、高校生が郷土への理解を深め、「ふるさと三重」に対する愛着と誇りを持ち、地域社会に貢献していく力を育成することを目的としております。

事業内容につきましては、生徒が探究学習を行う際に、有識者の方々をお招きして講演や指導をいただくということや、生徒が現地調査を行ったり、大学や企業等の研究室を訪問したりすることを支援することで、探究学習を推進していきます。実施校につきましては、公募により今年度は 10 校の探究活動について支援をしていくということで決定しております。

今後の活動でございますけれども、7 月に予定しております各校の探究活動のうち、取材対象となる主な取組を記載をさせていただきました。

四日市高校の「真珠母貝であるアコヤガイとクロチョウガイの生態と真珠産業」をテーマとするグループが、アコヤガイ、クロチョウガイの生態調査を、7 月 5 日に紀伊長島比幾海岸で、7 月 30 日、31 日に水産高校およびその周辺海岸で行う予定です。

津高校では 7 月 6 日に、地域イノベーション学を専門とする、三重大学の西村訓弘教授をお招きしまして、地域課題解決を目標とした取組に関する講義・実習等を実施する予定です。

名張青峰高校では、1 年生文理探究コースの生徒 40 名が、7 月 28 日に、三重大学を会場に、学生や大学職員に向けて、地域の魅力発信に関する学習成果についてプレゼンテーションする活動を行う予定です。

本事業で支援する探究学習については、例年 2 月に実施しております「みえ探究フォーラム」で学習成果を発表していただく予定です。今年度は「ふるさと三重賞」を新設し、テーマに合致する優秀発表を表彰いたします。

これらの活動について取材していただける場合は、高校教育課キャリア教育班までお問い合わせをお願いいたします。また、今回具体例の記載のない学校や、8 月以降の取組についても、また改めてご紹介させていただきます。

探究活動を通して、高校生の郷土への理解を深め、愛着と誇りを持って地域社会に貢献する力を育成し、将来、三重県で活躍できる生徒を育てていきたいと考えています。

発表項目に関する質疑

○「わたしの好きな本大賞」を実施します

(質) 県民投票を図書館とか書店で行うということですが、参加する図書館や書店はある程度決まっているのですか。

(答 社会教育・文化財保護課) これから県内の公立図書館や書店に働きかけて決めていくところです。

(質) 昨年ほどのくらいの図書館や書店が協力したのですか。

(答 社会教育・文化財保護課) 昨年度は、県立図書館と亀山市立図書館、紀宝町立図書館、それから未来屋書店と別所書店、それから県立学校や小中学校の図書室でもブースを設置していただきました。

(質) 未来屋書店は何店舗ですか。

(答 社会教育・文化財保護課) 三重県が作っているネットワーク、「本よもうネットM I E」に未来屋書店は8店ほど入っていますので、そのネットワークに入っている店舗には、ご協力いただけるように、これからお願いしていきます。

(質) 「本よもうネットM I E」には、どのような団体がどれぐらい入っていますか。教育委員会も入っていると思いますが。

(答 社会教育・文化財保護課) 教育委員会も入っています。各市町教育委員会、幼稚園や公立図書館、企業等が入っています。令和7年度末で団体数は514です。

(質) 本と、子どもたちや大人の接する機会を増やすねらいは何ですか。

(答) 大きな目的は二つあります。一つ目は、子どもたちの読書習慣の定着です。あともう一つは、本屋さんでイベント的に投票してもらうという意味では、読書環境の醸成となることです。

(質) 子どもたちの読書の時間が減っている等の基本的なデータはありますか。

(答 社会教育・文化財保護課) 全国学力・学習状況調査にて、小学生の読書時間について、「学校の授業時間以外に、月曜日から金曜日に1日当たりどのくらいの時間、読書しますか」という質問に対し、「平均10分以上している」児童の割合が、令和7年度、三重県の小学生は50.4%でした。全国平均が53.2%であるため、全国に比べると三重県は少し低い状況です。

(質) 改めて、この大賞の実施の意義やこういった作品を期待されるかについてお聞かせください。

(答) 先ほど読書習慣をつけるというのもそうですが、本を読むことには様々な効果があります。特に、学力に関して、読書時間と学力の相関はあるとわかっていますし、やはり本を読んで、自分としての考えを持つということ、本には様々な意見が載っていたり、

様々な状況が載っていたり、自分が体験したことがないことが本には書かれていたりします。様々な言葉も学べますし、様々なことを疑似体験することによって感性を磨くことや想像力、創造力を育めること等、良い面がありますので、自分が好きな本を選ぶように、あるいは読めるように、読書環境を整えながら、本事業に参加していただきたいと考えています。もう一つは、本を読んで、想像がかき立てられ、絵で表現する「わたしのさし絵部門」もあります。昨年度は小学生から 185 点の応募をいただきましたので、ぜひ参加していただきたいと思っています。

(質) 副賞はないのですか。受賞者には図書券等を渡してはどうですか。

(答 社会教育・文化財保護課) 今年度は表彰状をお渡しさせていただくのですが、副賞はありません。

(質) 小学生以下の参加者には参加賞をお渡ししますとなっているが、参加賞は何ですか。

(答 社会教育・文化財保護課) 昨年度は本のしおりをお渡しさせていただきました。今年はまだ最終決定はしてないんですけども、参加賞はご用意させていただきます。

(質) 教育長の好きな本は何ですか。

(答) 私は事実をもとにした、小説が好きです。

(質) ノンフィクションということですか。

(答) どちらかというとノンフィクションが好きですね。

(質) 例えば何ですか。

(答) 吉村昭さんの本を読んでいました。また、経済小説を面白く読ませていただきました。

(質) 漫画本はいけないのですよね。

(答 社会教育・文化財保護課) 絵本は良いのですが、漫画は今回の事業では対象外となっております。

(質) さし絵なのですけども、最近は生成 A I で絵を描くということもありますが、それも良いのですか。

(答 社会教育・文化財保護課) 募集要項では、生成 A I での作成は、応募しないでくださいとなっています。

○県誕生 150 周年事業「みえに学びみえの未来を考える」探究学習推進事業を実施します

(質) 探究学習なのですけども、新規事業で 200 万円の予算のものですか。

(答) はい。新規事業で、予算は 200 万円です。

その他の項目に関する質疑

○小学校の火災に関する知事会見について

(質) 東京の小学校の火事の件に関する昨日の知事会見で、調査するのかどうかという問いに、一見知事が「文科省の指針が決まってから」と言われて、会見の中盤で訂正が入り、

6月24日付で、教育委員会は通知を出すと訂正したところのかみ合わせの悪さは何ですか。

(答) 文科大臣の記者会見があり、早々に通知を出すと会見で聞いておりましたので、それを受けて、教育委員会の中でも検討していたところなのですが、教育委員会の方から知事部局の方へ、連絡がうまくいかなかったため、途中で修正する形になってしまったという状況でした。

(答 教育総務課) 月曜日の午前中に文科大臣の記者会見があり、文科大臣から「調査をする」「スピード感を持ってやる」といった発言がありました。その後、翌日の火曜日の時点で通知等がなかったため、安全確認の通知だけは三重県教育委員会として各県立学校及び市町教育委員会に出さなければならないという判断のもとに、通知文書を作成していたところ、記者会見の中で知事がお答えしたということです。記者会見の中で知事から「調査については過不足があるかもしれないため、文科省の通知を待つ」という発言がありましたので、調査については文科省の通知を待つということで、こちらも準備をしていたところでございます。

(質) 一見知事のこの5年間見ていると、教育にそれほど関心があるように見えないのですが、例えば知事部局主催の教育会議がそれまでに比べるとかなり数が減っていたり、教育大綱が出てくることに関しても遅かったり、ある意味、教育にあまり関心を示されないのですが、そういうことが時々あるのですか。今回も、教育委員会としては報告したけれども、知事自身の頭の中になかったということですか。

(答) 記者会見までにという話はあったのですが、こちらの報告が遅れたという形になります。

(質) 突き詰めていけば、教育委員会から知事に事前に十分に話せていなかったもので、知事はその場で文科省の発言を待つとおっしゃったということですね。

(答) 少なくともこちらから、知事に明確にお伝えをしてなかったというところがありますので、今後は十分気をつけていきたいと思います。

○教員採用試験について

(質) 教員採用試験の応募数ですが、平成30年度に比べて小中高とも半分ぐらいになっています。減少の原因分析や対策はできているのですか。

(答) これから子どもの数も減っていきますので、教員の必要数も考えていく必要があろうかと思います。まずは、受験していただく人数を増やしたいというのと、中長期的には教職を魅力あるものにする取組をしていく必要があります。受験者を増やす方策については、例えば大学と連携して、教育実習に行く前の段階で、教育現場と一緒にさせていただくプレアシスタント制度を作っておりまして、教員養成大学の学部にいる方に、教員になることについてのハードルを下げさせていただいたうえで、試験を受けていただくというものがあります。また、教員免許を持ってない方に向け、試験の対象を増やす

などといった様々な策を講じ、まずは受験していただく方を増やしていく。中長期的には、教職の魅力向上として、働き方改革や、学校に対する要望への対応であるとか、負担の軽減であるとか、教員採用試験を受験していただくための様々な取組を進めていくことが必要だと考えています。

(質) 桑名市選出の倉本県議がよく言われていましたけれど、例えば桑名市在住であれば、名古屋市など愛知県内の小中学校に通勤できるわけで、給料は向こうの方が高いから、この格差を何とかしてくれないかという話をされていたのですが、措置や対策はあるのですか。

(答 教職員課) 地域手当の格差というのは、あると思います。一方で、まずは魅力を伝えていくことが必要であると思っております。大学生や高校生にどうアタックするか。今は免許を持っていない社会人の方も特別免許を取ることができるようにするなど、できるだけ受験者を増やしていけるよう取り組んでいます。

(質) 実際は量と質の問題があつて、数をそろえればいいという話ではなく、毎年教員の不祥事が発表されているわけで、量と質というのはどう考えていますか。

(答 教職員課) いわゆる倍率と不祥事の相関関係はないと思っています。二次試験や面接の際に、コンプライアンスについて説明をさせてもらっていますし、事前研修でも説明をさせてもらい、教員採用を進めております。

(質) 人間というのは採用となったときの段階と、後に結婚されて家庭を持つ段階とで、だんだんと考え方も変わってくるわけで、中間以降から退職ぐらいまでの教員に対する研修が、初任者研修よりも質が低いから、不祥事が発生するのではないかという考えもあるのですが、そのあたりはどう思いますか。

(答) 研修について、初任者研修を始め、6年目とか、10年目とか、主幹昇任時とか、校長に至るまで様々な研修をそろえています。その都度、コンプライアンスについて研修をしています。そのような中でも不祥事が発生してくることに、様々な原因があると思うのですが、県教委としては、コンプライアンス研修や綱紀粛正といったことにしっかりと取り組んでいく必要があると思います。

(質) 二次合格者というのは、いわゆる内定のことを指すということですか。

(答 教職員課) そうです。

(質) 内定辞退率が年々上がっていると思うのですが、例えば、神奈川県や首都圏に近いようなところでは、採用してもかなりの割合で辞退されてしまうようですが、三重県の場合はどうでしょうか。

(答 教職員課) 直近の数字は持っていないのですが、昨年より若干増えているのは事実でございます。小中高の合計で20名ほどで、全体の5%ほどです。

○国籍要件について

(質) 国籍要件についてですが、知事部局で検討していて、復活させようという話がありま

す。今の制度でも公権力の行使にあたる役職には採用されないが、外国籍の方は一切教員採用試験を受けられないとするやり方もあると思います。そこについて、知事部局とのすり合わせは、教育委員会としてやられているのですか。

(答 教職員課) 当時の文部省の通達に基づいて、任用の期限を付さない常勤講師としての任用が全国的に認められています。その運用を進めています。

(質) 知事部局が復活させることを検討しているようですが、それについて教育委員会は、知事と情報共有はされていないのですか。

(答) 基本的には情報共有はしていますが、知事部局が検討しているようなことに対して、教育委員会には文科省からの通知もございますので、今のところ検討はしていません。

以上、15時34分終了